

吉備路の古代史年表

こもり塚古墳 (国史跡) Map②

吉備路で前方後円墳築造が低調となる中、半世紀ぶりにつくられた前方後円墳です。日本屈指の規模を誇る横穴式石室も相まって、ここに眠る被葬者の権威の高さが想像できます。

- 588 飛鳥寺 (最古の寺院) 建立
- 593 聖徳太子が推古天皇の摂政となる
- 600 遣隋使派遣
- 630 遣唐使派遣
- 645 乙巳の変 (大化の改新)

栢寺廃寺 (県史跡) Map④

古墳時代から奈良時代へと移り変わる7世紀には、古墳がつくられなくなり、寺院が造営されはじめます。

672 壬申の乱・・・古代日本最大の内乱

聖武天皇の時代

724 聖武天皇即位 (第45代)



- 734 畿内七道地震
- 735 天然痘流行
- 740 藤原広嗣の乱
- 745 天平地震
- 741 国分寺建立の詔・・・国家プロジェクト始動！
仏教の力で国を守ろう！＝鎮護国家思想
- 745 平城京遷都
国分寺の建立、思うように進まず・・・
- 747 国分寺建立の督促①
国司息悞の指摘・地方豪族への協力要請
- 752 東大寺大仏の開眼法要
- 756 聖武太上天皇崩御
国分寺建立の督促②

古墳時代

飛鳥時代

奈良時代

平安

造山古墳・作山古墳 (国史跡) Map①

全国各地でつくられた前方後円墳。吉備では中央の大王たちと肩を並べる巨大前方後円墳がつくられました。

- 538 仏教伝来
- 555 吉備五郡に白猪屯倉を設置 ※屯倉：大和政権が設置した地方の拠点。

江崎古墳 (国史跡)・鷲尾塚古墳 Map③

吉備路には古墳時代終末の石室が多く残されています。このあと次第に古墳がつくられなくなり、古墳時代が終わりを告げます。

- 660 百濟滅亡
- 663 白村江の戦い
- 668 高句麗滅亡
- 676 新羅による朝鮮半島統一

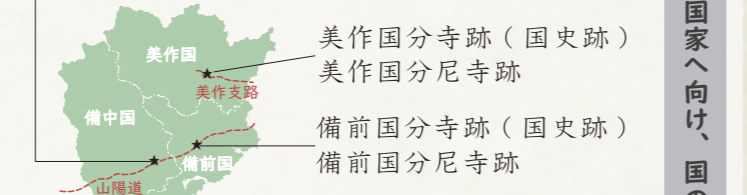


鬼ノ城 (国史跡) 侵襲の恐れ

白村江の戦いで敗戦に伴う唐・新羅の侵襲に備え、西日本各地に防衛施設が築かれました。

- 701 大宝律令・・・日本初の法律。律令国家の成立
- 710 平城京遷都
- 713 備前国から美作国が分国する
- 717 吉備真備が唐に留学する (第8回遣唐使)

備中国分寺跡・国分尼寺跡 (国史跡) Map⑤



仏教により国を護るため、国家プロジェクトとして全国約60か所に建てられたこの官寺はその建設と維持に膨大な財力と労力が割られました。

- 794 平安京遷都
- 894 菅原道真、遣唐使の廃止を提言

天皇を中心とする中央集権的な国家へ向け、国の整備を進める



【吉備路への交通アクセス】

○車
 総社 IC から 8分 (4.5km)
 倉敷 IC から 9分 (5.2km)
 ※駐車場は「備中国分寺県管北駐車場」または「吉備路もてなしの館県管駐車場」をご利用ください。

○公共交通
 <タクシー>
 総社駅から 10分 (5.7km)
 <レンタサイクル>
 総社駅から 20分 (5.7km)

広域マップ

10分 0.9km	30分 2.5km	40分 3.2km	20分 1.5km
備中国府コース	作山古墳コース	備中国分寺コース	造山古墳コース

遺跡見学の見学注意

- ◎野外活動に適した服装・靴を身につけましょう
- ◎私有地や危険な場所には入らないようにしましょう
- ◎動植物を採取したり、傷つけてはいけません
- ◎地域の人にあいさつをしましょう
- ◎ごみは持ち帰りましょう
- ◎文化財を汚したり、壊したりしてはいけません
- ◎文化財の近くは火気厳禁です

Bicchu Kokubun-niji Temple is one of the Kokubun-niji temples (provincial nunneries) built, along with Kokubun-ji temples (monasteries), by the order of Emperor Shomu during the Nara period in 741 AD. He ordered to build about 60 monasteries and nunneries throughout Japan to quell national calamities like smallpox and famine by using the power of Buddhism. He commanded, "Because Kokubun-ji temples are the pride of the nation, their locations must carefully be chosen, so they may be honored for a long time." This is the reason that Bicchu Kokubun-niji Temple was built at the present location along the ancient Sanyo Way, a main road from Nara, the capital city of Japan at the time to Dazaifu, the administrative head quarter in Kyushu. While nearly half of Kokubun-niji temples' locations across Japan remain unproved, it is well known that the site of Bicchu Kokubun-niji Temple has been preserved well. Foundation stones of the Main Hall (Kondo) as well as mud wall surrounding the nunnery remain in good condition. For this reason, the site of Bicchu Kokubun-niji Temple was designated as the National Historic Site in 1922. 101 years after the designation, the first archeological research began and revealed structures of the South Gate, the Middle Gate and the Lecture Hall in 2023. We focused on the most important building, the Main Hall in 2024. As there have been few similar researches, it is expected that we will get a close look at the reality of Kokubun-niji temple, which yet remains shrouded in mystery.

発行：岡山県古代吉備文化財センター
 〒701-0136 岡山市北区西花尻 1325-3
 TEL：086-293-3211 FAX：086-293-0142
 表紙ビジュアル：小倉護

古代瓦の復元動画 絶賛公開中！

▲公式 YouTube

KODAL KIBI

▲ホームページ

文化力 POWER OF CULTURE

令和六年十二月 刊行月

VEGETABLE OIL INK



「吉備路の歴史遺産」魅力発信事業 史跡 備中国分尼寺跡

国分寺は、天平 13 (741) 年に聖武天皇の命を受け、国分寺とともに全国約 60 か所に建てられました。国分寺跡の約半数が所在地不明か推定にとどまる中、備中国分寺跡は金堂の礎石や寺域を囲む築地が良好な状態で残されており、その重要性から大正 11 (1922) 年に国の史跡に指定されました。

国史跡に指定されてから 101 年、ついに始まった令和 5 年度調査では南門、中門、講堂の建物規模や構造の一端が明らかとなりました。続く令和 6 年度は、最も重要な建物である金堂の調査を中心に行いました。全国的にみても調査事例が少ない国分寺、その実像に迫ることが期待されます。

備中国分寺跡 伽藍配置

※伽藍：寺院の建物の総称。

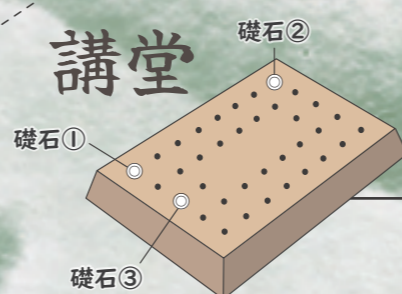
- ◎ 現在又は調査でみつかった礎石
- 調査でみつかった柱穴
- 推定柱位置

▼金堂調査区の全景（北西から）



建物

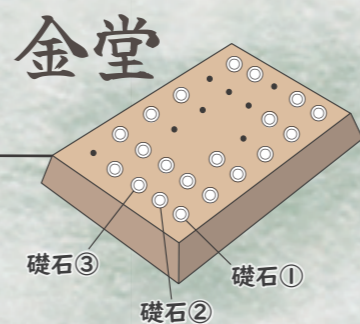
講堂



【様式】瓦葺礎石建物
【建物規模】5間×4間
【基壇推定規模】東西 25m×南北 17m

本尊を安置していた最も重要な建物

金堂



【様式】瓦葺礎石建物
【建物規模】7間×4間
【基壇推定規模】東西 25m×南北 16m

尼僧が經典について学ぶ建物

建物

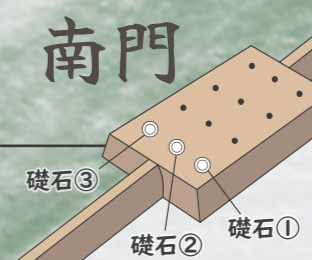
中門



【様式】瓦葺掘立柱建物
【建物規模】3間×1間
【基壇推定規模】東西 12m×南北 5m

金堂に入るための門

南門



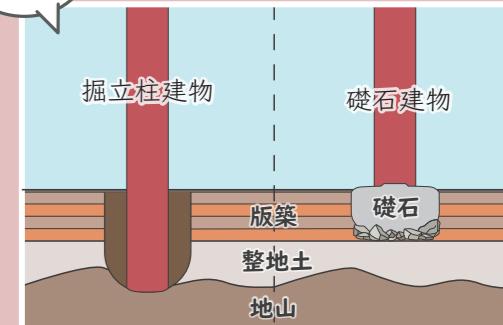
【様式】瓦葺礎石建物
【建物規模】3間×2間
【基壇推定規模】東西 12m×南北 9m

寺の正面玄関

中門

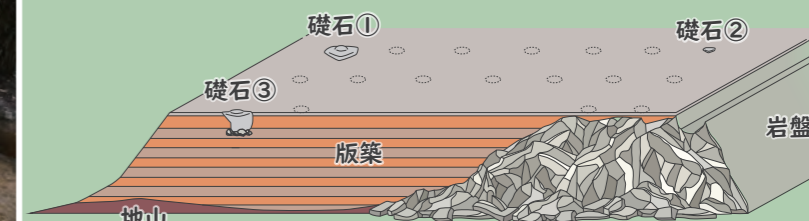
採用

瓦葺き屋根は大変重いので、礎石建物であることが一般的ですが、中門では掘立柱を採用しており、大変珍しい例だといえます。基礎としての礎石がなくても、重い屋根を支えられる強い地盤であったからこそ可能であった建築方法でしょう。



柱据え付け方法模式図

講堂



▲北西端（北東から）

▲講堂断面模式図（南から）



▲北東端（西から）

▼柱穴①（南から）



▶柱穴②（北から）



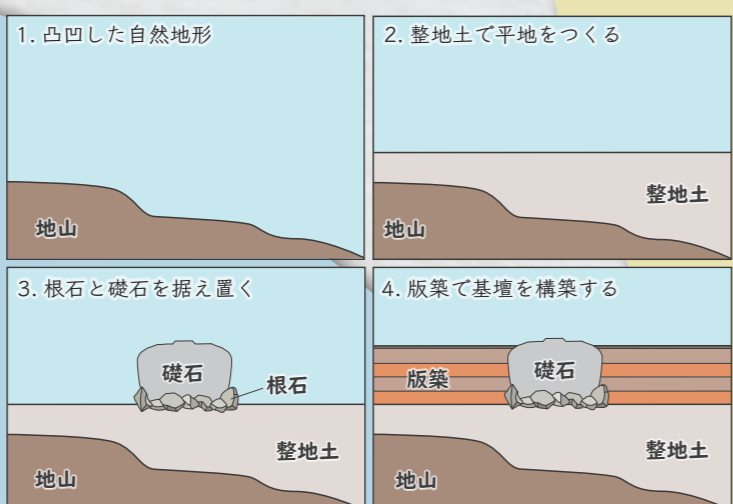
▲瓦だまり（南から）



備中国分寺跡・備中国分尼寺跡遠景（南西から）

令和 5 年度の発掘調査では南端に露出していた礎石①のほかに、2つの礎石がみつかりました。新たにみつかった礎石②③と比べて、礎石①はとても大きな石材を使っています。古代山陽道に面するお寺の正面を意識して、南に立派な礎石①を置いたのでしょう。

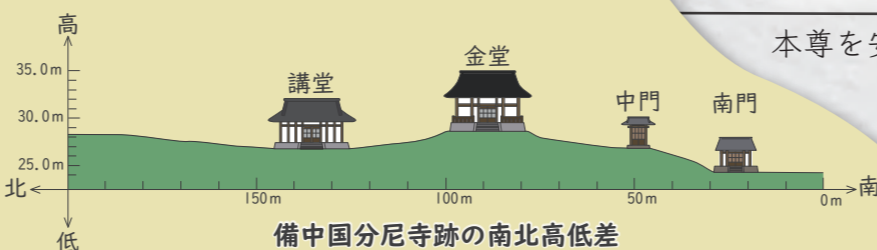
◎古代山陽道：律令制下において、中央と地方諸国を結んだ7本の幹線道路のうちの一つ。古代山陽道は都と対外交流の窓口であった九州大宰府を結ぶ交通路として、七道の中でも特に重視されました。



南門基壇のつくりかた



南門調査区（北から）

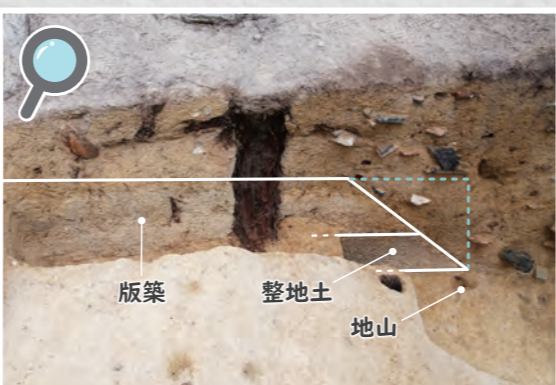


備中国分尼寺跡の南北高低差

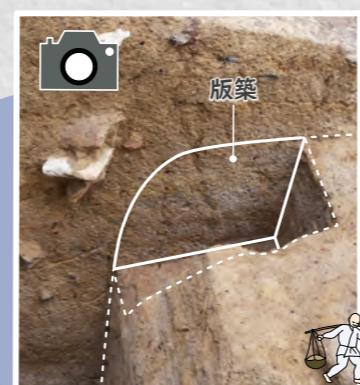
備中国分尼寺跡は南北に長い伽藍配置（南北 216m・東西 108m）をしています。

また、丘陵上に建てられているため、東西南北で高低差があることが特徴的です。やはり金堂は重要視されていたからこそ、最も高所かつ平坦なよい場所に建てられたのでしょう。

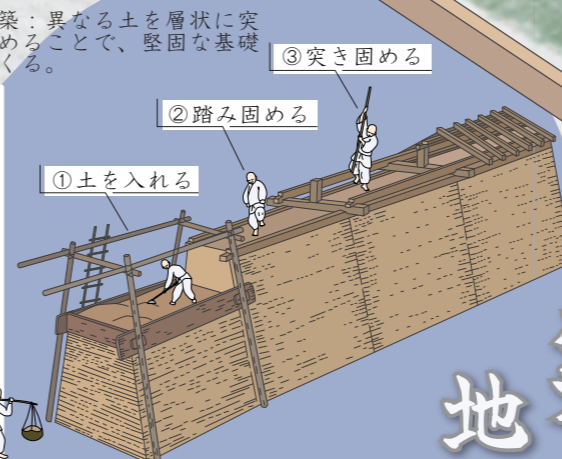
金堂



基壇西端の拡大（北から）



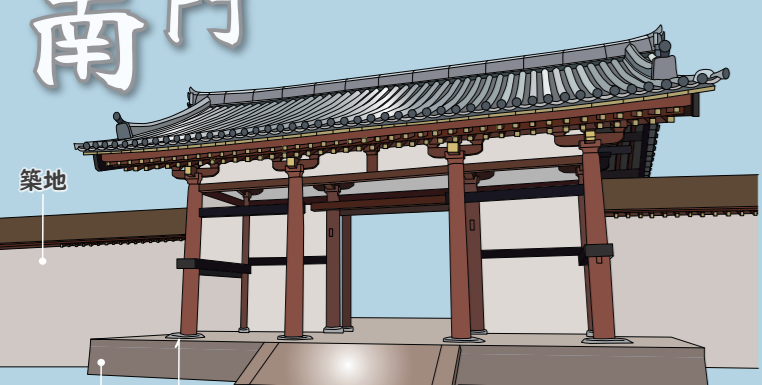
版築断ち割り写真



築地（版築）のつくり方

地築

南門



南門想像図（南東から）